



©大田区

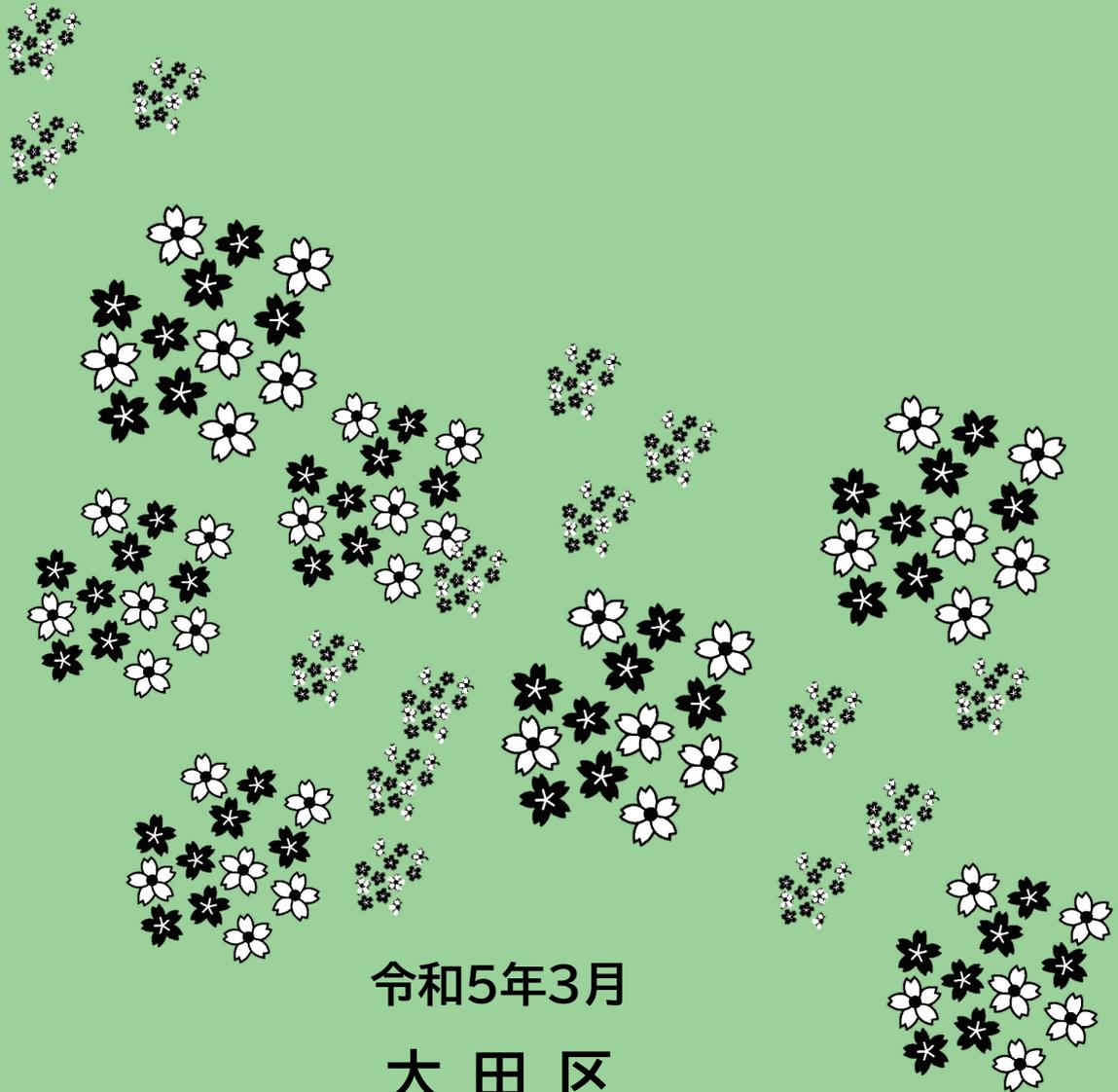
令和4年度

# 大田区障がい者実態調査結果報告書

18歳以上調査

18歳未満調査

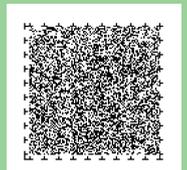
サービス提供事業所調査

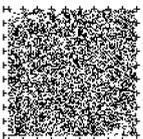


令和5年3月

大田区

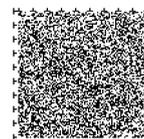
この冊子は音声コード付きです。  
右のマークが音声コードで、コードの位置を示すために切り込みを入れています。  
専用の読み上げ装置を使用して読み取ることで、音声で内容を聞き取ることができます。

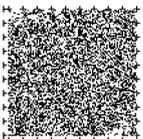




# 目次

<b>第1章</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
(1)	調査の目的.....	1
(2)	調査実施概要.....	1
(3)	回収結果.....	3
(4)	調査結果の見方.....	3
<b>第2章</b>	<b>施策に向けての検討</b> .....	<b>7</b>
(1)	検討の視点.....	7
(2)	項目別の大田区の課題.....	8
(3)	次期計画の策定に向けて.....	20
<b>第3章</b>	<b>アンケート調査結果(当事者)</b> .....	<b>21</b>
(1)	調査票の回答者.....	21
(2)	ご本人について.....	24
(3)	障害福祉サービス等について.....	58
(4)	日中活動や就労について.....	84
(5)	保育・教育について.....	92
(6)	外出とバリアフリーについて.....	97
(7)	保険・医療について.....	106
(8)	災害時の対応について.....	116
(9)	権利擁護について.....	129
(10)	相談や情報について.....	138
(11)	将来の暮らし方について.....	150
(12)	区の施策について.....	158
(13)	家族のニーズについて.....	176
<b>第4章</b>	<b>アンケート調査結果(サービス提供事業所)</b> .....	<b>191</b>
(1)	事業所概要について.....	191
(2)	提供サービスについて.....	195
(3)	事業運営の概要について.....	216
(4)	虐待防止について.....	221
(5)	事業継続への対応について.....	225
(6)	障がい者総合サポートセンター(さぽーとぴあ)との連携について.....	230
(7)	大田区の障がい児(者)施策について.....	233
<b>資料編</b>	.....	<b>234</b>





# 第1章 調査の概要

## (1) 調査の目的

障がい者の増加や高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、障がい者に対する支援のニーズは多様化・複雑化している。区は、おおた障がい施策推進プランにおいて包括的な支援体制及び地域力による支援と共生の地域づくりを掲げ、障害福祉施策を推進しているところであるが、次期「おおた障がい施策推進プラン(大田区障害者計画、第7期大田区障害福祉計画、第3期大田区障害児福祉計画、大田区発達障がい児・者支援計画)」の策定にあたり、障がい者を取り巻く状況や課題等に関する最新の情報を把握する必要がある。区内全域に調査を行い、障がい者の生活状況、障害福祉サービス等の利用状況及びサービス事業者の実態等を把握するとともに、地域ごとの課題や障がい特性に応じた支援ニーズを分析することで、より効果的な計画策定のための基礎資料を得ることを目的とし、大田区障がい者実態調査を実施する。

## (2) 調査実施概要

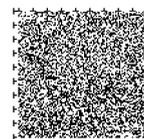
### ア 調査対象

区内在住の障がい者、区内でサービスを提供している事業所を対象に調査を実施した。

#### ①18歳以上調査 抽出数

障がい種別		年齢層							抽出数 合計
		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上	
身体障害者手帳所持者	視覚障がい	35	38	58	77	75	59	58	400
	聴覚・平衡機能障がい	59	52	50	70	61	60	48	400
	音声・言語・そしゃく機能障がい	8	6	16	23	38	35	24	150
	肢体不自由	140	130	129	128	119	102	102	850
	内部障がい	94	98	90	90	84	72	72	600
愛の手帳所持者		139	119	125	110	105	90	12	700
精神障害者保健福祉手帳所持者		110	100	95	95	85	72	43	600
自立支援医療受給者証(精神通院)所持者		34	30	30	30	28	24	24	200
特定医療費受給者証所持者		100	92	90	90	84	72	72	600
合計									4,500

※障がい種別及び年齢層ごとに抽出数を割り当てた上での無作為抽出



## ②18歳未満調査 抽出数

障害種別		抽出数
身体障害者手帳所持者	視覚障がい	17
	聴覚・平衡機能障がい	50
	音声・言語・そしゃく機能障がい	2
	肢体不自由	202
	内部障がい	69
愛の手帳所持者		680
精神障害者保健福祉手帳所持者		69
自立支援医療受給者証(精神通院)所持者		41
特定医療費受給者証所持者		20
通所受給者証所持者		350
合計		1,500

※障がい種別に抽出数を割り当てた上での無作為抽出

## ③サービス提供事業所調査 抽出数

事業所の種類	抽出数
指定障害福祉サービス事業者	153
指定障害者支援施設	2
指定一般・特定・障害児相談支援事業者	20
指定障害児通所支援事業者	25
合計	200

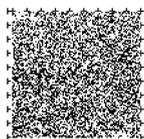
※事業所の種類ごとに抽出数を割り当てた上での無作為抽出

## イ 調査方法

郵送発送、郵送及びインターネットによる回答

## ウ 調査期間

令和4年11月2日(水)～11月25日(金)



### (3) 回収結果

調査種別	有効調査数	有効回答数	無効回答数	回収率
①18歳以上調査	4,434 件	2,144 件	25 件	48.9 %
②18歳未満調査	1,483 件	713 件	6 件	48.5 %
③サービス提供事業所	199 件	136 件	2 件	69.3 %
合計	6,116 件	2,993 件	33 件	49.5 %

※6,200 件発送のうち、84 件が宛先不明。戻分は回収率算出の分母から除いている。

### (4) 調査結果の見方

#### ア 障がいの特性を踏まえた分析について

各設問における分析にあたっては、障がいの特性を踏まえるため、以下の分類により行った。略称については、分類自体が回答者の回答に基づくものでもあり、困りごとなど共通した傾向が見られやすいと思われる枠組みとしてつけたものであるため、一般的な、身体障がい、知的障がい、精神障がい等と完全に重なるものではない。また、各分類において重複が発生しうることに留意が必要である。

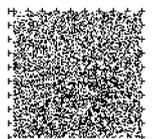
##### ①各障がい種の分類方法

略称	分類方法
[身体]	身体障害者手帳を持っていると回答した方
[知的]	愛の手帳を持っていると回答した方
[精神]	精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療受給者証を持っていると回答した方
[難病]	特定医療費受給者証を持っていると回答した方
[発達]	発達障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方
[高次]	高次脳機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方

また、特に、身体障がいのある方について、さらに詳しく分析を行う場合は、同様に以下の分類のもと、次の略称を用いる。

##### ②身体障がいのある方の詳細分析における分類方法

略称	分類方法
[視覚]	視覚障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方
[聴覚]	聴覚・平衡機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方
[音声]	音声・言語・そしゃく機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方
[体幹]	体幹や上肢下肢などの運動機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方
[内部]	内臓や免疫機能などの内部障がいを手帳等の取得のきっかけと回答した方



## イ ウェイトバック集計について

「18 歳以上調査」と「18 歳未満調査」においては、居住地及び回答者の年齢層による回収率等の差異を補正する目的で、集計にあたっては、データにウェイトを乗じて算出するウェイトバック集計を実施した。

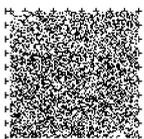
ウェイトバック集計とは、回収されたサンプル(標本)を母集団(対象人口)の構成に合わせて集計する方法で、母集団と回収サンプルの構成比が異なる場合に、属性の抽出率や回収率の違いを補正し母集団構成比に復元する場合などに使用するものである。

本調査における居住地及び年齢層別のウェイトは以下のようになっている。

居住地及び年齢層別ウェイト

居住地	年齢層	母集団(A)	有効回答数(B)	ウェイト(A/B)
大森地域	6 歳以下	299	77	3.88
	7~12 歳	407	90	4.52
	13~17 歳	275	66	4.17
	18~29 歳	912	97	9.40
	30~39 歳	1,113	96	11.59
	40~49 歳	1,543	82	18.82
	50~59 歳	1,806	120	15.05
	60~69 歳	1,553	99	15.69
	70~79 歳	2,087	109	19.15
	80 歳以上	2,025	72	28.13
調布地域	6 歳以下	312	58	5.38
	7~12 歳	339	64	5.30
	13~17 歳	250	73	3.42
	18~29 歳	732	68	10.76
	30~39 歳	820	56	14.64
	40~49 歳	1,150	72	15.97
	50~59 歳	1,327	76	17.46
	60~69 歳	1,202	80	15.03
	70~79 歳	1,475	72	20.49
	80 歳以上	1,633	45	36.29

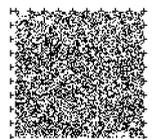
※次ページに続く



居住地域	年齢層	母集団(A)	有効回答数(B)	ウェイト(A/B)
蒲田地域	6歳以下	291	49	5.94
	7～12歳	404	88	4.59
	13～17歳	265	54	4.91
	18～29歳	999	91	10.98
	30～39歳	1,231	98	12.56
	40～49歳	1,748	112	15.61
	50～59歳	2,110	126	16.75
	60～69歳	1,741	109	15.97
	70～79歳	2,233	96	23.26
	80歳以上	2,005	70	28.64
糀谷・羽田地域	6歳以下	63	19	3.32
	7～12歳	131	43	3.05
	13～17歳	178	32	5.56
	18～29歳	495	46	10.76
	30～39歳	457	31	14.74
	40～49歳	737	51	14.45
	50～59歳	916	45	20.36
	60～69歳	812	48	16.92
	70～79歳	1,042	37	28.16
	80歳以上	1,016	40	25.40

※母集団とは、大田区内の各種障害者手帳所持者等の居住地域及び年齢層別の人数。

※サービス提供事業所調査では、地域ごとに回収率等の差異が発生する可能性は低いと考えられたため、ウェイトバック集計を行っていない。



## ウ 調査結果を見る上での注意事項

- 原則として調査票の順番に沿って集計結果を示している。
- 集計表及びグラフの「n=〇〇」はその設問についての有効回答数を示している。ウェイトバックを行っている集計結果（18歳以上調査及び18歳未満調査）においては、「n=〇〇」の記載を省略している。
- 集計対象件数が10件未満となる場合、集計の精度を保つことが難しいため、グラフでの掲載を省略している。
- 集計結果は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 障がいの特徴を踏まえた分析においては、各種障害者手帳等の所持状況に重複があることに留意が必要である。
- 障がいの特徴を踏まえた分析等においては、全体と比較して10ポイント以上差異がある項目についてコメントにて言及している。
- 「0.0%」の回答割合が連続する場合において、グラフから各選択肢の回答割合の表記を省略している場合がある。

